

國府

〔吾妻鏡〕三壽永三年元曆二月十八日丁丑武衛源賴朝被發御使於京都是洛陽警固以下事所被仰也又中略備後已上五箇國景時梶原肥實平土等遣專使可令守護之由云云

〔倭名類聚抄五〕國郡備後國上十一日下六日行程

〔伊呂波字類抄比〕國郡備後國中略葦田アシタ

〔藝藩通志三〕備後國府

備後國府古は葦田郡に在、今府中村是なり、今東には福山城、西には三原城を置く、略

〔安西軍策二〕備後三吉合戰事

天文十三年七月晴久尼七千餘騎ヲ率、備後ノ國府ニ出張、略

〔倭名類聚抄五〕國郡備後國略管十四略安那夜須深津布加神石加女奴可加沼隈奴乃品治保牟

葦田安之甲奴加不三上美加惠蘇御調三豆爾美多三谿美與

〔延喜式二〕民部備後國上管甲奴安那三上深津惠蘇神石御調奴可世羅沼隈三谿品治三谿葦田右爲中國

〔藝藩通志三〕備後郡邑建置沿革考

備後國上古郡を分つの制いまだ詳ならず、按に續日本紀、和銅二年冬十月庚寅、備後國葦田郡甲努村相去郡家、山谷阻遠、百姓往還煩費太多、仍割品遲郡三里隸葦田郡甲努村、この時いまだ甲努郡を置かれざるに似たり、然るに日本後紀延暦廿四年奏書に、既に甲努郡の名あれば、史に明文はなしといへども、和銅延暦の間と見ゆ、又は和銅二年品遲郡を割き、葦田郡甲努村に隸すると云は即別郡として、甲努郡と呼けるやも知べからず、又續日本紀養老五年夏四月丙申、分備後國安那郡置深津郡とあり、和名抄所載十四郡略、今に至かくのごとし、拾芥抄には別に吉刀郡を加へて十五郡とす、いまだ何の據を知らず、今時御調、甲奴、世羅、三谿、奴可、三上、三次、惠蘇の八郡、本藩に屬し、その餘六郡は、福山及び中津領も交れり、又甲奴郡も八村當領にて、其餘は公邑と中津